

令和2年度（2020年度）新規研究課題

課題番号：R2-09

課題名：実生コンテナ苗の育苗期間短縮技術の開発

研究期間：令和2年度～令和5年度（2020年度～2023年度）

研究担当：林業技術部 林業研究室

1 研究の背景

戦後造成されたスギ・ヒノキ人工林が資源として成熟し、森林資源の本格的な利用期を迎えており、今後、皆伐の増大に伴う、伐採跡地での再造林放棄地の拡大が懸念される。

このようななか、森林の多面的機能を維持・発揮させつつ、森林資源の循環利用を図るためには、伐採後の再造林実施の確保が必要であり、それには、森林所有者への十分な収益還元率の向上が不可欠である。

そのために、伐採から造林までのトータルコストの低減に向けた「一貫作業システム」の構築が検討されており、それに必要不可欠なツールであるコンテナ苗についても、育苗期間の短縮等、低コストで効率的な育苗技術の開発による苗木価格の低減が求められている。

2 目的

コンテナ苗の価格低減に向けて、本県の温暖な気候特性を活かして、低コストで効率的な実生スギ・ヒノキコンテナ苗の育苗期間短縮技術を検証・確立する。

3 研究内容

コンテナ苗の価格低減に向け、施肥効果試験を中心に、低コストで効率的な実生コンテナ苗の育苗期間短縮技術の試験を実施する。

4 研究のポイント

- ・特別な施設を要しない、低コストで効率的な方法による実生コンテナ苗の育苗期間短縮技術の開発を目指す。
- ・本技術の確立により、県内の苗木生産者の生産コストの縮減、ひいては、コンテナ苗価格の低減を図り、主伐後の確実な再造林の推進に資する。

5 普及に向けたスキーム

- ・研究成果は、早期の普及・定着を図るため、研究発表会等で逐次情報発信するとともに、関係機関と連携し、県内苗木生産者への研修会において、直接技術指導を行うこととする。
- ・研究成果は、苗木生産マニュアルとしてとりまとめ、上記研修会等で配布し、生産技術の円滑な普及に活用する。

実生コンテナ苗の育苗期間短縮技術の開発

研究期間：R2-R5（2020-2023）
研究担当：林業技術部 林業研究室

【目的】

一貫作業システムによる再生林の推進を図るため、低コストで効率的な育苗技術を開発する。

【研究内容】

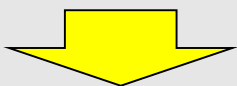
○コンテナ苗育苗期間短縮技術の確立

1 短縮化のための施肥効果等の検証

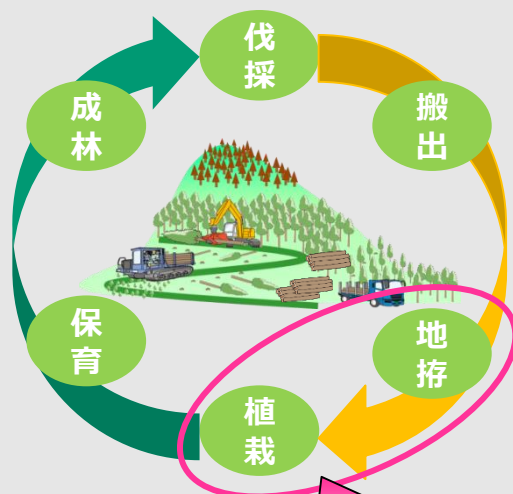
簡易施設による育苗を実現するため、最適な施肥条件等を解明する。

2 健全苗生産のための散水方法等の検証

得苗率の維持・向上を図るため、健全性及び根鉢成形性を確保する散水方法等を解明する。



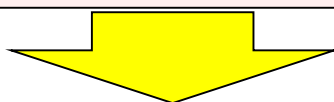
苗木価格の低減による
一貫作業システムの促進



植栽コストの低減により
再生林を推進

【到達目標】

- ・育苗期間を3/4～1/2に短縮(1～1年半の育苗)
- ・生産コストの15～30%を削減



コンテナ苗の価格低減・再生林の推進